昨年の十大ニュース

新しい年を迎えることができました。今年もよろしくお願いします。

「おめでとう」と言えない二〇二四年です。石川県、富山県、新潟県と福井県の北陸地方、近隣の各県の皆さんに地震による被害お見舞いを、お亡くなりになられた皆さんにお悔やみを申し上げます。

二〇二三年を振り返ると色々ありました。うれしいこと、悲しいこと、許しておけないことなど…。

ということで私（住職）の二〇二三年十大ニュースを書きたいと思います。

① 新しい「領解文」（浄土真宗のみ教え）のご消息発布（一月）

② 本山親鸞聖人御誕生八五〇年、立教開宗八〇〇年慶讃法要団体参拝（五月）

③ 坊守得度式受式、僧籍取得（六月）

④ 境内地フェンス設置（八月）

⑤ 内陣荘厳、巻障子補修工事完了（八月）

⑥ 向拝と山門～本堂への参道に敷石設置完了（八月）

⑦ 高千穂組仏教夏季講座当山にて開催（八月）

⑧ 宮崎別院親鸞聖人御誕生八五〇年立教開宗八〇〇年慶讃法要参詣（十月）

⑨ 山門門扉取り付け完了（十一月）

⑩ ご門徒三十四人ご往生（一月～十二月）

◎ 許せないこと

①が二〇二三年唯一許せないことでした。本願寺教団を大混乱させた宗意安心に反する大問題でした。

◎ 嬉しかったこと

②はご消息問題の後、執行された法要でしたが、高千穂組から参加した四十人にとってはありがたいご縁となりました。

③は坊守がよく受式を決断してくれたと感謝しています。

④から⑦と⑨は親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年を記念した事業でしたが、施工業者の皆さん、ケヤキ材を提供くださった藤本武久様のお支えをいただき、無事にすべて見事に完工できたことは喜ばしくありがたいことでした。

⑧は高千穂組から七十八人、金光寺からは七人の方とともに宮崎市で行われた法要に参詣しました。記念行事の月亭方正さん、お弟子さんの落語など楽しく視聴できたご縁でした。

◎ 悲しかったこと

一年間で三十四人のご門徒がお亡くなりになられた二〇二三年。私が住職になり最も多い物故者数となりました。（⑩で掲載）

驚きと同時にお亡くなりになられた方とお浄土での再会をと思った葬儀のご縁でした。

◎ 新年を迎えて

二〇二四年もいろんなことがあると思いますが、今、一番待ち望んでいるのは三月末で四年の任期を終えて組長職から解放されることです。

県内の組長様には会議等でご迷惑をおかけしましたが、楽しい時間を過ごすこともできました。残念な面もあるのですが、今は四月一日をキリンのように首を長くして待っている日々です。

今年も皆様とともにお念仏相続をと念ずる年の初めです。

南阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

法語の世界

《原文》

前々住上人、蓮如、北国のさる御門徒のことを仰せられ候ふ。なにとしてひさしく上洛なきぞと仰せられ候ふ。御前の人申され候ふ。さる御方の御折檻候ふと申され候ふ。その時御機嫌もつてのほか悪しく候ひて、仰せられ候ふ。開山聖人親鸞の御門徒をさやうにいふものはあるべからず。御身一人聊爾には思し召さぬものを、なにたるものがいふべきとも、とくとくのぼれとて、と仰せられ候ふと云々。

（『蓮如上人御一代記聞書』二百九十二）

《現代語訳》

蓮如上人が北国のあるご門徒のことについて、「どうして長い間京都にやって来ないのか」とお尋ねになりました。お側のものが、「あるお方のきびしいお叱りがあったからです」とお答え申しあげたところ、上人はたいそうご機嫌が悪くなり、「ご開山聖人のご門徒をそのように叱るものがあってはならない。わたしはだれ一人としておろそかには思わないのに。〈どのようなものが何をいおうとも、はやく京都に来るように〉と伝えなさい」と仰せになりました。

新年あけまして
おめでとう
ございます
今年もお念仏のご縁
喜ぶ一年でありますよう
お念じ申し上げます

二〇二四（令和六）年　元旦

金光寺寺内一同
金光寺役員一同